

兵庫県立 考古博物館 NEWS



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2013 Autumn-Winter



法雲寺 赤松円心菩提寺の瓦 当館蔵

平成25年秋冬号

■特別展「動乱! 播磨の中世 - 赤松円心から黒田官兵衛まで -」・・・2

◆平成25年度古代体験学習交流会「考古博古代体験・秋まつり」・・・・・・・4

◆企画展「ひょうごの遺跡2014 - 調査研究速報 -」・・・・・・・5

◆学生ボランティア募集・・・・・・・5

◆東日本大震災復興支援職員現地報告「兵庫県の熱き思いを東北へ」・・・・・・・6

◆「播磨国風土記 - 神・人・山・海 -」関連の二つの試み・・・・・・・7

特別展

「動乱！播磨の中世－赤松円心から黒田官兵衛まで－」

10月5日(土)～12月1日(日)

播磨の中世史を語る上で欠くことの出来ないものに播磨国守護赤松氏があります。赤松氏は円心則村（1277～1350）の時、後醍醐天皇の命に応じて鎌倉幕府倒幕に尽力し、後には足利尊氏に従って室町幕府の成立に果たしました。その多大な功績により嘉吉の乱後の一時期を除いて戦国時代に至るまで播磨国守護として君臨します。

一方、赤松氏の播磨支配が瓦解する戦国時代末期に赤松氏の陪臣の子として生まれた黒田官兵衛よしとか孝高は羽柴秀吉の軍師として縦横に知略を巡らし、やがては天下人となった秀吉さえも恐れさせた播磨が生んだ英雄です。

近年、吉田住吉山遺跡（三木市）や山野里宿遺跡（赤穂郡上郡町）の調査成果が公表され、今まで知られていなかった赤松氏との関連が考えられる南北朝時代の「軍陣」や室町時代中期の「宿」の様相が明らかになってきました。

今回の展覧会では、赤松氏ゆかりの遺跡から出土した発掘資料や伝世資料を通して、赤松円心に始まる南北朝時代の赤松氏の台頭から戦国時代末期の黒田官兵衛の登場と赤松氏の滅亡までをたどります。

I 南北朝の動乱と赤松氏の台頭

赤松円心は後醍醐天皇の命を受けて鎌倉幕府倒幕に尽力し、その後は足利尊氏に仕えて南朝との



青磁鳳凰耳花生（白鶴美術館蔵）

戦を戦います。円心の三男則祐のりすけは南朝との戦いだけではなく、観応の擾乱と呼ばれる足利氏の内紛期を通じて一貫して足利将軍家に忠誠を尽くし、その功によって一族で播磨、美作、備前、摂津の四カ国の守護職を有する

大大名へと躍進します。

最近調査が実施された吉田住吉山遺跡は赤松則祐が南朝方の丹生山（神戸市北区）を攻めた際、赤松軍が拠点とした軍陣の一つで、前線基地と言うよりはむしろ兵站基地としての性格が強いとされています。

ここでは、吉田住吉山遺跡から出土した陶磁器などの遺物のほか、龍泉窯青磁の精華ともいえるべき青磁鳳凰耳花生などを通じて、南北朝期の赤松氏の動向を描きます。

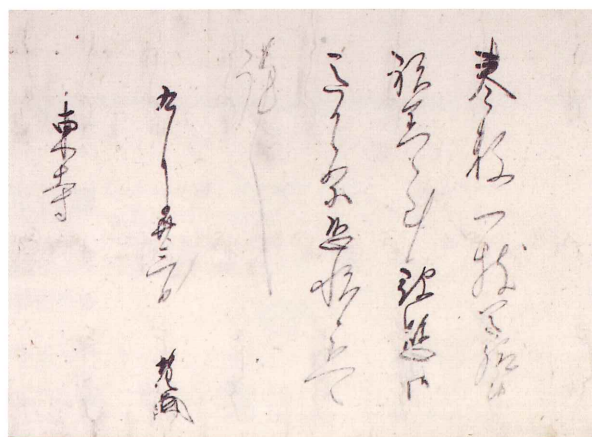
II 将軍と守護－赤松氏の全盛期－

三代将軍足利義満から六代将軍義教に至る14世紀後半～15世紀前半の1世紀足らずの時期は室町幕府の全盛期であると同時に赤松氏も則祐、義則、満祐と続く全盛期に当たります。

しかしこの時期、独裁化を目指す将軍とそれに反抗する有力守護との確執は明徳の乱を始めとする内乱を引き起こしてゆきます。将軍と守護の争いは六代将軍義教の時に頂点に達し、ついに赤松満祐による将軍義教暗殺と言う前代未聞の大事件嘉吉の乱（嘉吉元年 1441）を引き起こします。

その結果、赤松氏は山名氏を中心とする幕府軍の討伐を受け、満祐は播磨城山城きのやま（たつの市）で自刃し、赤松氏は一時的に滅亡するに至ります。

ここでは、城山城出土資料、京都の相国寺境内出土資料、国宝赤松性具（満祐）巻数返事などから赤松氏の全盛期から嘉吉の乱までをたどります。

国宝 赤松性具（満祐）巻数返事
（京都府立総合資料館蔵「東寺百合文書」）

Ⅲ 赤松氏の再興と応仁・文明の乱

応仁・文明の乱の直前の長祿元年（1457）満祐の大甥に当たる**赤松政則**は赤松氏を再興します。政則は乱を通じて細川方として活躍し、その功により、播磨、備前、美作の守護に返り咲き、**置塩城**（姫路市）に本拠を定めて播磨の領国経営に努めます。

しかし**応仁・文明の乱**の結果、赤松氏の領国内では守護代や国人が自立の動きを見せるようになり、やがて下剋上の風潮が蔓延する戦国の世へと移って行きます。

ここでは、花の御所（京都市）出土資料、感状山城（相生市）出土資料、赤松政則画像などを通して、赤松氏の再興から徐々に衰運に向かう姿を描きます。

Ⅳ 赤松氏治下の播磨の宿と流通の一樣相

ー山野里宿遺跡の調査成果からー

山野里宿遺跡は赤松氏の居城**白旗城**の近くに位置する15世紀後半代を中心とする「**宿**」と考えられる遺跡で、ちょうど、赤松政則が赤松氏を再興した時期に当たります。

ここでは、山野里宿遺跡から出土した貿易陶磁、瓦質土器、備前焼などの広範囲に流通した陶磁器などを通して、室町時代中期の播磨の流通、人々の往来について考えます。



山野里宿遺跡出土土器・陶磁器（当館蔵）

Ⅴ 戦国時代の播磨

ー黒田官兵衛の登場と赤松氏の播磨支配の終焉ー

戦国時代になると守護赤松氏の力は急速に衰え、赤松氏は僅かに西播磨の支配権を保持するに過ぎなくなります。

戦国時代後半になると、これらの播磨の中小勢力は東の織田、西の毛利の二大勢力の狭間で翻弄



黒田孝高画像（大阪城天守閣蔵）

されるようになり、やがて秀吉の播磨侵攻とそれに続く中国攻めによって赤松氏の播磨支配は名実ともに終焉を迎えます。このような中であって、小寺氏の被官であった**黒田官兵衛孝高**はいち早く秀吉の才能を見抜き、秀吉配下の軍師として活躍し、黒田氏は福岡52万石の大大名に上り詰めます。

ここでは、**御着城**（姫路市）出土資料、黒田孝高画像など通じて、近世への序曲ともいえる織豊政権の成立に大きく貢献した黒田官兵衛の出現と赤松氏の滅亡までをたどります。

（学芸課 岡田章一）

《イベント情報》

【講演会】

- 会 場／当館講堂
 時 間／13:30～15:00（12:50より整理券配布・開場）
 定 員／120名
 参加費／無料
- 10月 5日（土）「赤松氏の栄光と没落
 ー円心から則房までー」
 渡邊大門（歴史家）
- 10月26日（土）「戦国山城の実像
 ー見せる・住む・籠るー」
 中井 均（滋賀県立大学教授）
- 11月 9日（土）「播磨の城館と赤松氏」
 山上雅弘
 （（公財）兵庫県まちづくり技術センター副課長）
- 11月16日（土）「中世の道ー宿と流通ー」
 岡田章一（当館学芸員）
- 11月24日（日）「花の御所の軌跡と戦国時代の京都」
 鋤柄俊夫（同志社大学教授）
- 11月30日（土）「中世播磨の終焉ー織田政権と播磨ー」
 小林基伸（大手前大学教授）

○イベント

- 「三木合戦絵図」絵解き
 語り手：生田淳仁（兵庫県教育委員会主任指導主事）
 日 時／10月27日（日） 11:00・14:00・15:00

【考古博であそぼう】

- 「戦国時代編」
 日 時／10月12日（土）・13日（日） 12:30～15:30
 ※一部観覧券必要

平成25年度古代体験学習交流会 「考古博古代体験・秋まつり」 全国から古代体験が大集合！

第6回「考古博古代体験・秋まつり」は、播磨町が実施する「第23回大中遺跡まつり」とともに開催します。

11月2日（土）には考古博物館前の体験広場で、全国各地から集まった博物館・資料館のスタッフに、各館自慢の体験メニューを披露していただきます。「第23回大中遺跡まつり」は史跡大中遺跡公園全域で展開します。



「考古博古代体験・秋まつり」には2年前の東日本大震災で大きな被害を受けた東北3県から御所野縄文博物館（岩手県）、奥松島縄文村歴史資料館（宮城県）、福島県文化財センター白河館「まほろん」（福島県）が参加する予定です。

その他、海外からは十三行博物館（台湾）、西日本エリアからは、九州国立博物館（福岡県）や鹿児島県上野原縄文の森、鳥取県立むきばんだ史跡公園など参加予定です。兵庫県内からも姫路市埋蔵文化財センターをはじめ多くの機関の参加が予定されています。

また前日の11月1日（金）、当館講堂にて「古代体験事例報告会」を開催します。NPO法人生涯学習サポート兵庫の山崎清治理事長に「子供はどこを見ているのか？—古代体験メニュー開発のヒント—（仮題）」と題して基調講演をお願いしています。その後、「博物館・資料館と史跡・遺



跡を活用した古代体験」をテーマに、県内外から事例報告します。むきばんだ史跡公園（鳥取県）、福島県文化財センター白河館「まほろん」（福島県）、史跡広渡廃寺（小野市）、史跡五斗長垣内遺跡（淡路市）および大中遺跡（当館）からの活用状況についての発表と意見交換を計画しています。一般参加も可能です。



開催当日の天候が晴れることを祈りつつ、「考古博古代体験・秋まつり」の準備を進める今日この頃です。ぜひご参加下さい。

（この事業は、『平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業』に採択されました。）

（学習支援課 山本 誠）

企画展予告

ひょうごの遺跡2014

—調査研究速報—

平成26年1月18日(土)～3月30日(日)

当館の最新の調査研究成果をごらんいただく企画展です。

今回の展示では平成24年度に刊行した20冊の発掘調査報告書に収録された主な遺跡と、平成25年度に発掘調査されたばかりの遺跡を取り上げます。その中からいくつか見どころを紹介しましょう。

三釈迦山北麓遺跡群（篠山市）では、弥生時代から古墳時代にかけて営まれた3つの集落跡と20基を超える墓の調査を行ない、100棟近くの竪穴住居跡が調査されました。古墳からは土器のほか耳環や玉類、鉄製品などの副葬品が出土しています。

市之郷廃寺（姫路市）では奈良～平安時代の金堂跡と考えられる仏堂基壇跡や築地跡が見つかり、古代の伽藍配置や寺域の推定が可能になりました。塔の基壇跡は見つかって

ませんが、塔先端部の水煙の一部が出土しており、塔の存在を裏付けています。

塚口城跡（尼崎市）では二重堀であることが判明しました。戦国時代の丹波焼壺や中国製白磁皿などが出土しています。塚口城は浄土真宗別院の塚口御坊を中心に形成された寺内町を契機として、戦国時代に城として拡大整備されてゆきます。当初は織田信長に反旗を翻した荒木村重が出城として利用しましたが、後に織田方に奪われ、有岡城攻めの拠点となります。

このほか最新の発掘調査成果も速報展示します。

どんな新発見が展示されるのか、楽しみにしてください。

（学芸課 藤間温子）



三釈迦山北麓遺跡群のうち桂ヶ谷奥古墳出土遺物



塚口城跡出土遺物

学生ボランティア募集！

学生の皆さん！考古博物館でボランティア活動をしてみませんか？

当館では今年度から学生ボランティア制度を設けました。

古代体験の指導やイベント企画に参画することでコミュニケーション能力の向上など、自身のスキルアップにもつながります。

登録され活動いただける方には当館の負担でボランティア保険に加入いたします。

募集対象は高校生～大学生です。若い力を期待しています。

お申し込み・お問い合わせは学習支援課、TEL079-437-5564（富永）まで。



東日本大震災復興支援職員現地報告

兵庫県の熱き思いを東北へ

東日本大震災の復興事業に関連する埋蔵文化財の発掘調査を支援するため、昨年度に引き続き、宮城県と福島県にそれぞれ1名の職員が派遣されています。兵庫県で培った発掘調査の技術と経験を活かし、東北の両県で積極的に活躍しています。その近況報告が寄せられましたので、ご紹介いたします。

(埋蔵文化財課 平田博幸)

福島県教育委員会派遣

甲斐昭光さんからの報告

「自分の町にこんな遺跡があるとは思っていませんでしたので、誇らしい気持ちです。」発掘体験に参加した福島県広野町立広野中学校のある生徒の言葉です。

私は、4月から東日本大震災復興にかかる発掘調査の支援のために福島県に派遣されています。福島での最初の仕事は、広野町が建設する災害公営住宅建設予定地で見つかった**桜田Ⅳ遺跡**の発掘調査でした。災害公営住宅は、現在仮設住宅で暮らす方々のための住宅ですから、一日でも早く調査を終えることは勿論、地域に遺跡の内容をよくお伝えしたい、という思いをもって調査に臨みました。予定より1か月早く調査を終えることができたこと、発掘体験や現地説明会等をとおして若い世代が地域を誇りに思う材料を提供できたことは大きな喜びでした。

今後も、文化財が持っている大きな力を信じて被災地で職務に励みたいと思います。

宮城県教育委員会派遣

池田征弘さんからの報告

4月1日の宮城県は春とはいえまだ肌寒かったですが、他府県の派遣職員には、阪神・淡路大震災の折に支援に来られた方々も見られ当時を思い出します。

翌週からは、石巻市に所在する**中沢遺跡**の発掘調査に携わっています。仙台湾を西に望む眺めのよい丘の上に、縄文時代前期の集落が広がっています。調査は住宅の高台移転に先立つもので、地元の職員（宮城県、石巻市）・派遣職員（島根県、福井県、新潟市、山形県）とともに力を合わせて取り組んでいます。大型住居が見つかっており、周囲の斜面には大量の土器や石器が捨てられている状況が今も見られます。大規模な縄文時代の遺跡は見るのも初めてで、見慣れぬ土器に戸惑うばかりでした。

宮城県に来て早3ヶ月が過ぎ、こちらの遺跡や石巻弁にも少し慣れてきました。さあ、これからです。



桜田Ⅳ遺跡での発掘体験風景



海を眺めながら（中沢遺跡）

特別展「播磨国風土記―神・人・山・海―」に関連した二つの試み

風土記編纂1,300年を記念した特別展「播磨国風土記―神・人・山・海―」が6月23日をもって無事閉会しました。会期中は約15,000人の皆様にご観覧いただきました。厚くお礼申し上げます。

この展覧会では『播磨国風土記』の魅力がより多くの方に伝わるよう、当館のボランティアと播磨地域の高校生の協力により二つの試みが実現しました。



「播磨国風土記を読む会」の活動

ひとつは当館のボランティアとともに『播磨国風土記』を学び、その成果を展示の中に活かしてゆくという事です。展覧会の約1年半前に立ち上げた「播磨国風土記を読む会」は、その名のとおり「読む」ことから始めようという勉強会で、担当の郡を決めて朗読し、自分たちで調べたことを発表する、さらに学芸員が考古学の成果を報告するというスタイルにしました。スタート時点で56名もの応募があり、いつまで続くだろうかという心配をよそに、会を重ねるごとに熱気を帯びた発表が繰り返されました。

その成果の一部は、「ボランティアが語る播磨国風土記の世界」というパネル展に結実しました。会期中、ボランティア自身が解説に立ち、朗読テープを流しながら、『播磨国風土記』の魅力を語ってくれました。

特別展会場では『播磨国風土記』の個々の伝承に言及した展示は少なかっただけに、郡ごとに具体的な伝承を取りあげて解説したパネルは、自分の住む地域についての関心を深めることにつながっているようでした。

高校生が描く播磨国風土記の世界

もうひとつは、『播磨国風土記』に描かれた物語をイメージした絵を高校生に描いてもらおうという試みです。9つの郡に所在する高等学校に協力を依頼し、画題は郡名由来伝承に統一しました。大半の高校生にとって、『播磨国風土記』は初めて接する古典です。そのため学芸員が事前に各校を回って、『播磨国風土記』の成り立ちや画題の伝承について解説をし、内容を理解してもらいました。

水彩画、油絵、イラストなどで描かれた9枚の絵には、高校生の感性でとらえた『播磨国風土記』の世界が見事に表現されていて、大変好評でした。



『播磨国風土記』で見つめなおす“ふるさと”

この展覧会をとおして強く感じたことは、地域に密着した『播磨国風土記』という素材がもつ不思議な力が、自分が生まれ育った“ふるさと”への関心と愛着を導き出しているということです。

展覧会は終わりましたが、兵庫県が推進する播磨国風土記編纂1,300年記念事業はまだ始まったばかりです。平成27年までの3年間、播磨各地の自治体などが主催する講演会や各種イベントが計画されており、インターネットを通しての情報発信も準備が進められています。当館でも子ども向けの紙芝居制作“播磨国風土記紙芝居キャラバン”を進めており、年明けからは播磨地域の小学校で上演されます。

これらを機に、自分の住む土地のことを、1,300年前の古代人がどのように伝えているのか覗いてみてください。きっと“ふるさと”を一層身近に感じる一歩となることでしょう。

(企画広報課 藤田 淳)

イベント・スケジュール

10 月	分類	名 称
5(土)	展覧会	特別展「動乱! 播磨の中世-赤松円心から黒田官兵衛まで-」開幕
5(土)	講演会	特別展講演会「赤松氏の栄光と没落-円心から則房まで-」 渡邊大門(歴史家)
12(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
12(土)・13(日)	イベント	考古博であそぼう 「戦国時代編」
19(土)	体験講座	赤米をつくろう~稲刈り~
26(土)	体験講座	強力パワー! 子持勾玉づくり-応用編-
26(土)	講演会	特別展講演会「戦国山城の実像 -見せる・住む・籠る-」 中井 均(滋賀県立大学教授)
27(日)	イベント	「三木合戦絵図」絵解き
11 月		
2(土)	イベント	第6回考古古代体験・秋まつり
9(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
9(土)	講演会	特別展講演会「播磨の城館と赤松氏」 山上雅弘((公財)兵庫県まちづくり技術センター副課長)
10(日)	ツアー	遺跡ウォーク「赤松氏ゆかりの城跡をめぐる-赤穂郡上郡町白旗城-」
16(土)	講演会	特別展講演会「中世の道-宿と流通-」 岡田章一(当館学芸員)
24(日)	講演会	特別展講演会「花の御所の軌跡と戦国時代の京都」 鋤柄俊夫(同志社大学教授)
30(土)	講演会	特別講演会「中世播磨の終焉-織田政権と播磨-」 小林基伸(大手前大学教授)
30(土)	体験講座	ループ組紐-上級編II-
12 月		
1(日)	展覧会	特別展「動乱! 播磨の中世-赤松円心から黒田官兵衛まで-」閉幕
7(土)	体験講座	銅鏡をつくろう
7(土)	講演会	考古学研究最前線3「太池ノ南遺跡の調査-白洲次郎祖父の屋敷跡-」 別府洋二(当館学芸員)
14(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
21(土)・22(日)	イベント	考古博であそぼう

12 月	分類	名 称
23(月)	体験講座	しめ縄づくり
25(水)~29(日)		メンテナンス休館
1 月		
2(木)	体験講座	古代の文字でカレンダーづくり
3(金)	イベント	新春もちつき
3(金)	イベント	考古博カルタ大会
11(土)	講演会	考古学研究最前線4「播磨国風土記の東西交流」 石野博信(当館館長)
11(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
11(土)	イベント	とんど焼き-小正月の火まつり-
18(土)	展覧会	企画展「ひょうごの遺跡2014 -調査研究速報-」開幕
25(土)	講演会	考古学研究最前線5「三沢山北麓遺跡群-丹波の大集落と古墳-」 仁尾一人((公財)兵庫県まちづくり技術センター副課長)
2 月		
1(土)	体験講座	連続講座! 高坏をつくろう①
2(日)	体験講座	節分-鬼瓦のお面で鬼退治-
8(土)	講演会	考古学研究最前線6「寺地古墳-但馬の堅穴系横口式石室-」 鐵 英記((公財)兵庫県まちづくり技術センター副課長)
8(土)	体験講座	連続講座! 高坏をつくろう②
8(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
22(土)	講演会	考古学研究最前線7「兵庫の中近世考古学」 岡田章一(当館学芸員)
3 月		
2(日)	体験講座	ひなまつり-ハニワのおひな様を作ろう-
8(土)	講演会	考古学研究最前線8「兵庫から日本の古代産業を考える」 森内秀造((公財)兵庫県まちづくり技術センター調査第2課長)
8(土)	解 説	バックヤード見学ツアー
21(金)・22(土)	イベント	考古博であそぼう
23(日)	講演会	平成25年度 発掘調査速報会
30(日)	展覧会	企画展「ひょうごの遺跡2014 -調査研究速報-」閉幕

■「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:00~15:00

■休館日:月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始 ※12月25日(水)~12月29日(日)はメンテナンスのため休館

■体験講座は事前予約が必要です。TEL:079-437-5564(学習支援課)

■イベントについての詳細情報は当館ホームページ・チラシでご確認ください。

兵庫県立考古博物館NEWS vol.12 2013 Autumn-Winter

発行年月日 平成25年9月10日

編集・発行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
<http://www.hyogo-koukoku.jp>
最新情報はホームページ・スタッフブログをのぞいて。

- 電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用
ください(普通車1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館

